森川　穣
mail: tubame25@hotmail.com
website: http://minorumorikawa.com

私たちは固定された意識ではない。
常に此岸と彼岸を往来し、瞬間瞬間を生きている。
まるでノイズのかかった映像のように、自分の輪郭は常に揺らいでいる。
周囲の景色、他人の思考、与えられた知識、流れてくる情報、過去の記憶、未来の展望。
そういったものが、次々に私に憑依し出て行ってしまう。
「自分らしさ」などというものは一つの脅迫概念でしかない。
この移ろいこそが自分自身である。
此岸と彼岸の間 (あわい) にある豊かさの世界に身を投げられたらと思う。

das Licht (Geist) (2015)

サイズ =210x140x950cm　素材 = 木材、プロジェクター

スイスはブリークで撮影した２００枚以上の光の写真を壁に投影する。
壁の上下には隙間が開いており、投影された光が漏れる。
さらにその前を人が通ることで、光が遮られ、影が裏側の隙間に反映される。
daslichtbrig: https://instagram.com/daslichtbrig/

das Licht (Geist) (2015)

das Licht (Panorama) (2015)

サイズ = 470x1500x180cm　素材 = 木材、塩

元塩の倉庫であった空間での展示。
空間に一文字の光の線が走り、その先を覗くと１t の塩で作られた「風景」が現れる。
塩の風景はスイスの地元の子供達約１００名により４日間かけて制作された。

das Licht (Panorama) (2015)

das Licht (W.D.) (2015)

サイズ = 可変　素材 = 木材

スイスはブリークにある故 Willi Dreesen 氏のアトリエでの展示。
外部に面した窓からは氏のドローイングを眺められ、アトリエ内ではドローイングを通して外部の光や音を感じられる。
ルネサンスの建築家レオン・バッティスタ・アルベルティは、その主著「絵画論」(1435) の中で、絵画を「開かれた窓 finestra aperta」に例えたが、再現性や透視法に収まりきらない絵画の持つ拡がりを実際の「開かれた窓」に対峙させることで表した。

das Licht (W.D.) (2015)

Raum (2015)

サイズ＝可変　素材＝コップ、陶器、水

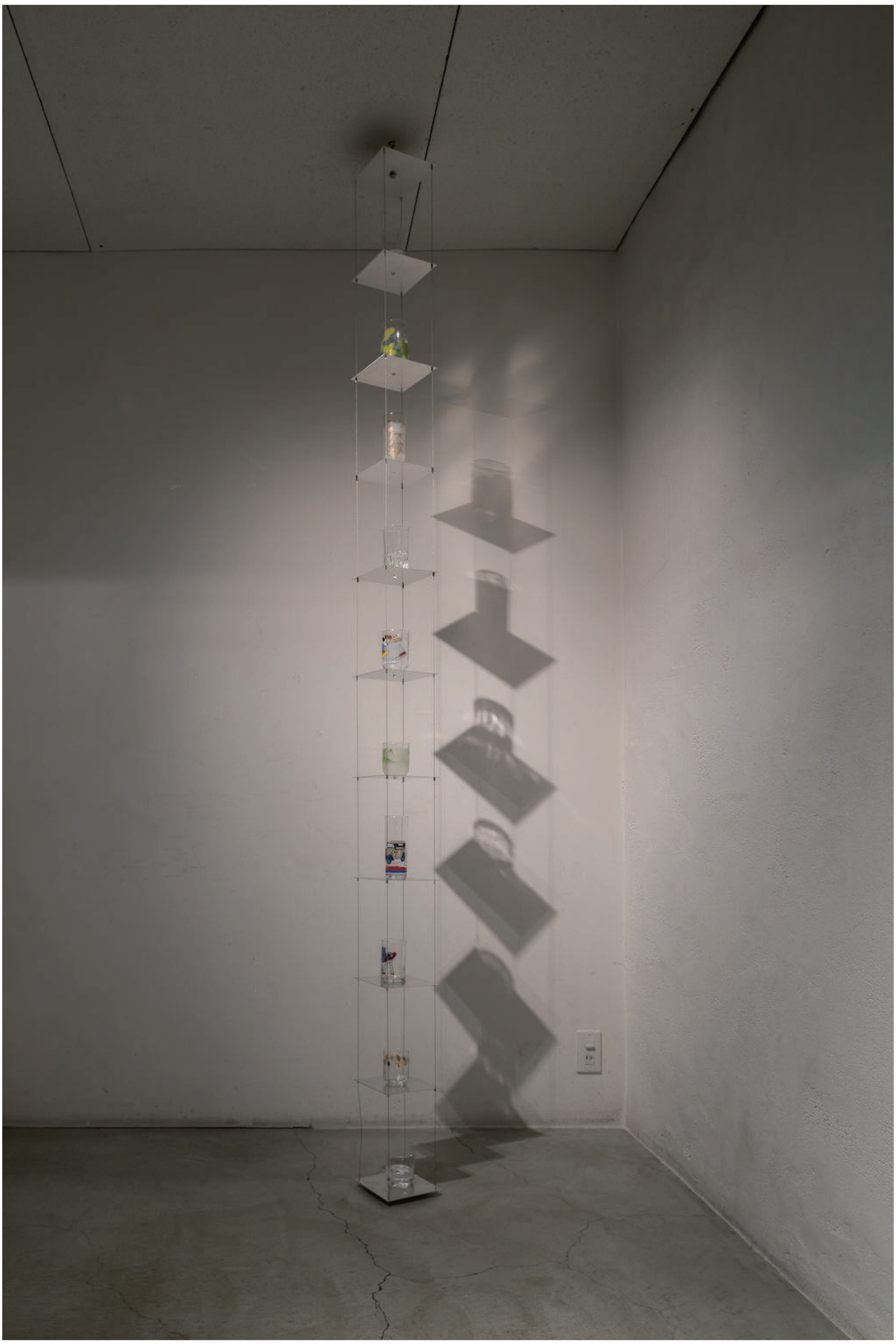
１列に並べられた６つの陶器と１つのコップ。
６つの陶器はそれぞれ破壊された後、修復されている。
その陶器にコップ一杯分の水を注ぐと、陶器のヒビから少しずつ水が浸み出す。
コップには常に水が並々と貯えられている。
日々自らの輪郭からアメーバーのようにはみ出る不安定な領域を、敢えてそのままにしてみること。
スイスはブリークのシュトックアルパー城公園内パビリオンにて展示された。

Raum (2015)

visitor (2013)

サイズ = 可変　素材 = コップ、アルミ板、ケーブル、雨水

コップにはそれぞれ小さな穴が開けられていて、雨水が上のコップから下のコップへリレーのように落ちていく。
雨はいつもやってきては消えていく存在。
その間の瞬間を捉えたいという思いから制作した。
この作品は大阪と韓国で展示された。



visitor (2013)

おとずれ (2012)

サイズ = 可変　素材 = 赤い糸

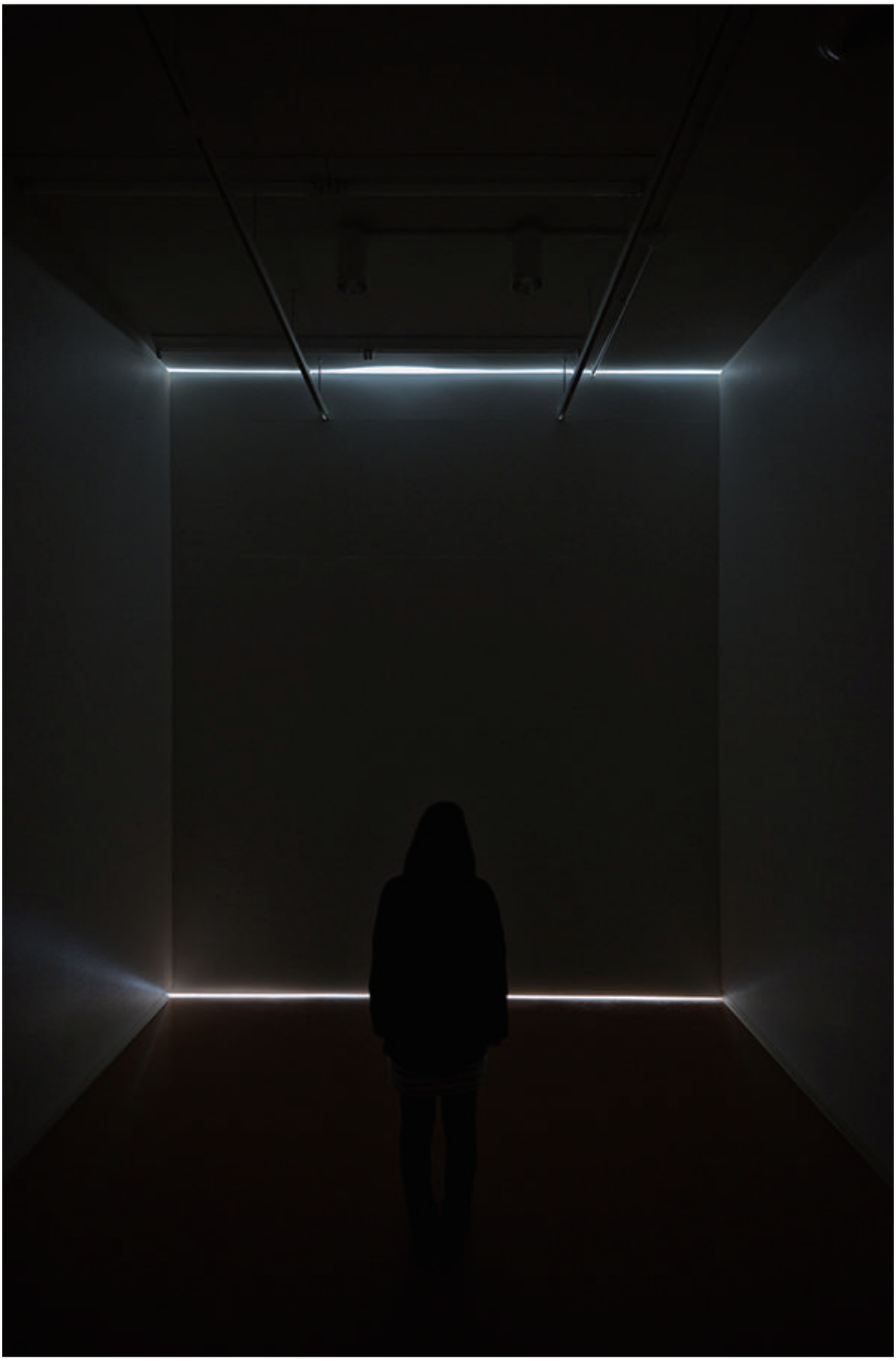
2012 年に「うつせみ」展という展覧会をキュレーションした。展覧会タイトルの「うつせみ」とは、「空蝉」と書いて蝉の抜け殻を意味し、同時に「現身」と書いて今を生きる人間のことを意味する。会場は愛知県小牧市にある常懐荘で、今は空き家となった和洋折衷の昭和初期の建造物である。８名の作家が参加し、それぞれの作品はその家に隠れるようにして展示された。この作品は、家の隙間を縫うように、一本の赤い糸が家中を駆け巡るというもので、隙間風のような存在として制作した。

おとずれ (2012)

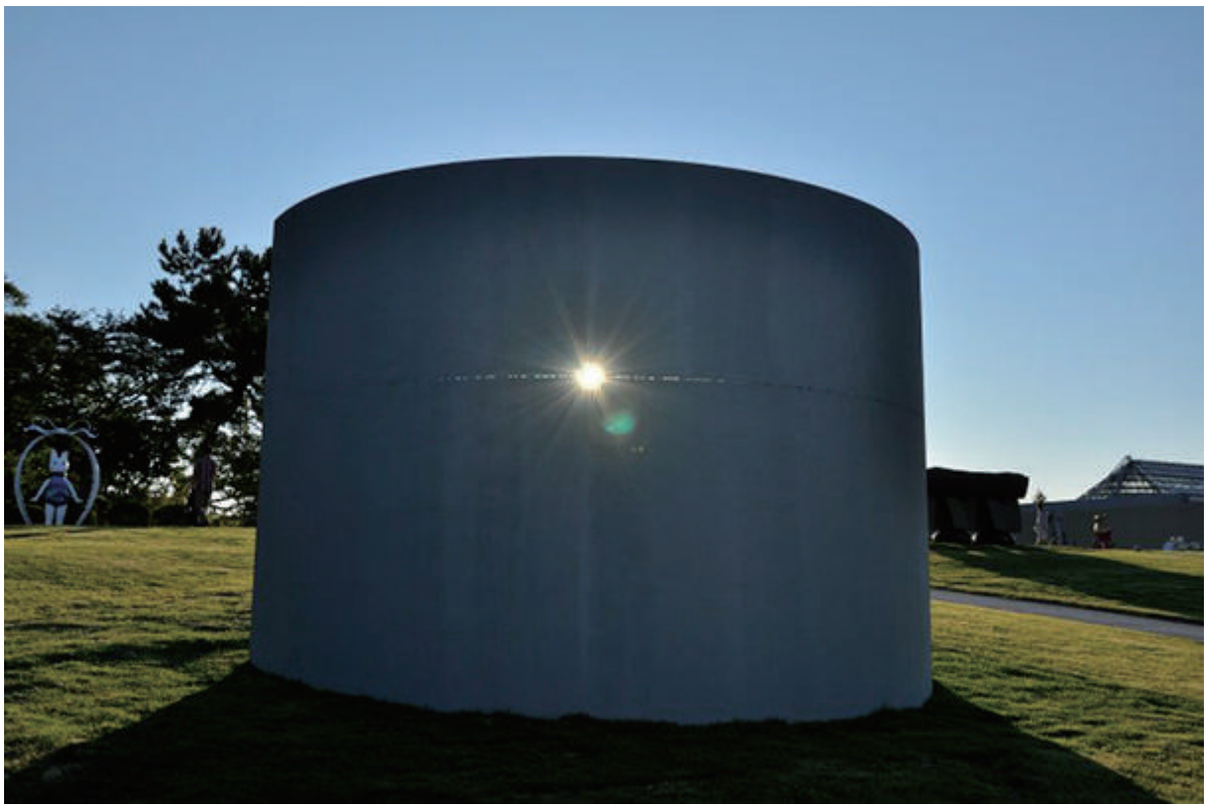
限りあるものと限りないもの (2012)

サイズ =395x355x490cm　素材 = 木材、壁紙、鉛筆

会場の一部屋を二つに分ける壁を制作した。この壁にはそれぞれ天地に隙間があり、片方の壁には比較宗教学者の濱田陽による「限りあるものと限りないもの」というテキストが書かれており、観客はそれを読むことができる。
壁の反対側では、天地に開けられた隙間から入る光を鑑賞し、また、壁の背後でテキストを読む別の鑑賞者の気配を感じることができる。



限りあるものと限りないもの (2012)



此方 (2011)

サイズ =240x400x200cm　素材 = 鉄、ペンキ

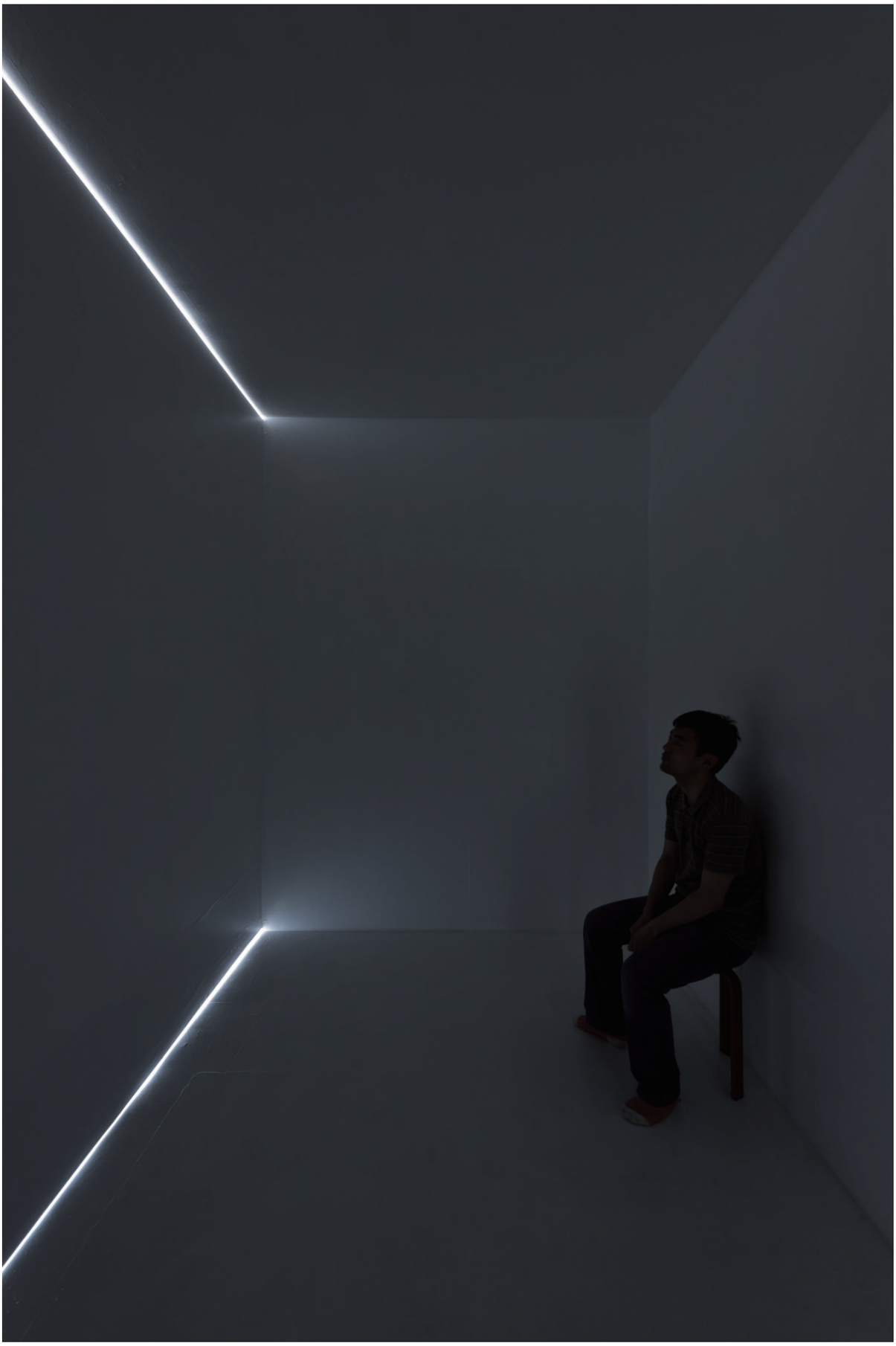
「第 24 回 UBE ビエンナーレ」実物制作指定入選作。
目の前に広がる湖からの光が、彫刻に開けられた無数の穴を通して差し込んでくる。
また、そこから湖を覗き観ることもできる。
こちらとあちらを隔てながら、緩やかにつなぐ、壁としての彫刻。

此方 (2011)

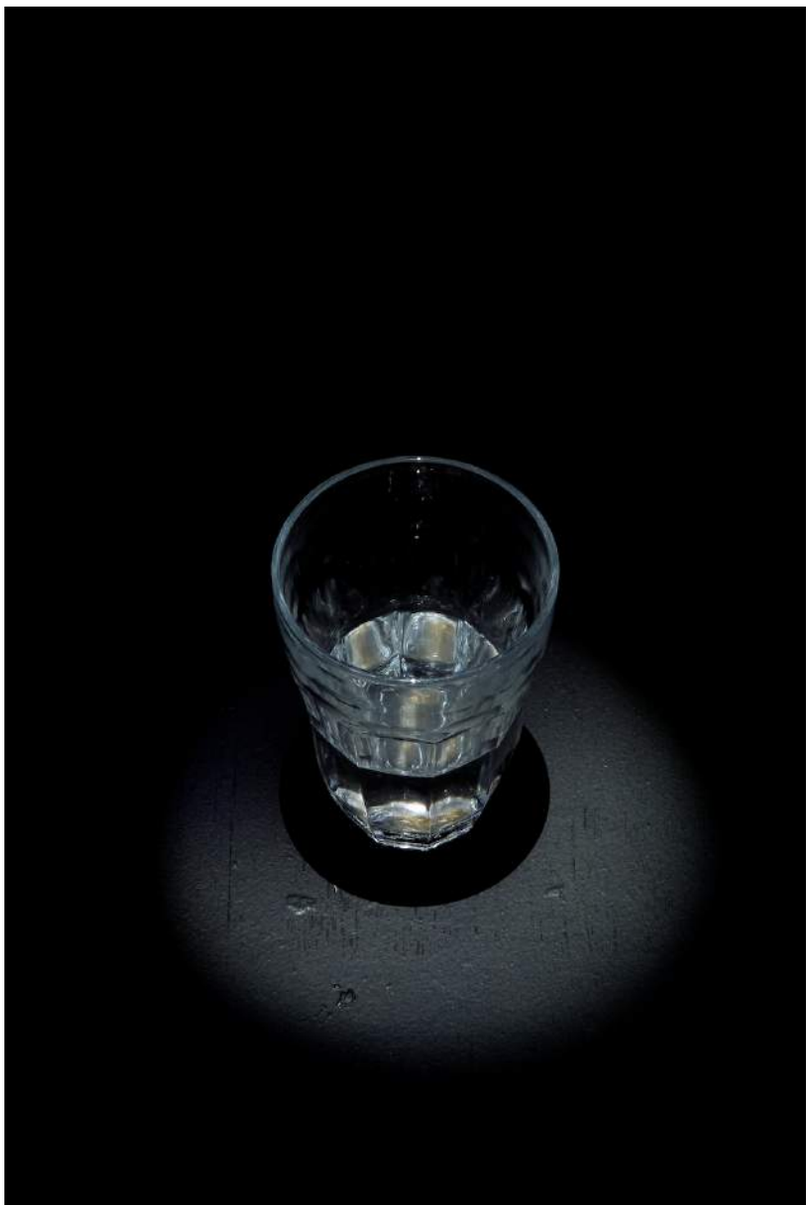
Silencer (2011)

サイズ =287x365x216cm　素材 = 木材、ペンキ

一つの空間を二つに分ける壁を制作。天地にはそれぞれ隙間が開いている。
鑑賞者は外の窓から、柏原えつとむ氏の絵画「Silencer」を観ることができ、壁の裏に回ると、天地の隙間から差し込む光や音、絵画を鑑賞する別の鑑賞者の息遣いを感じることができる。



Silencer (2011)

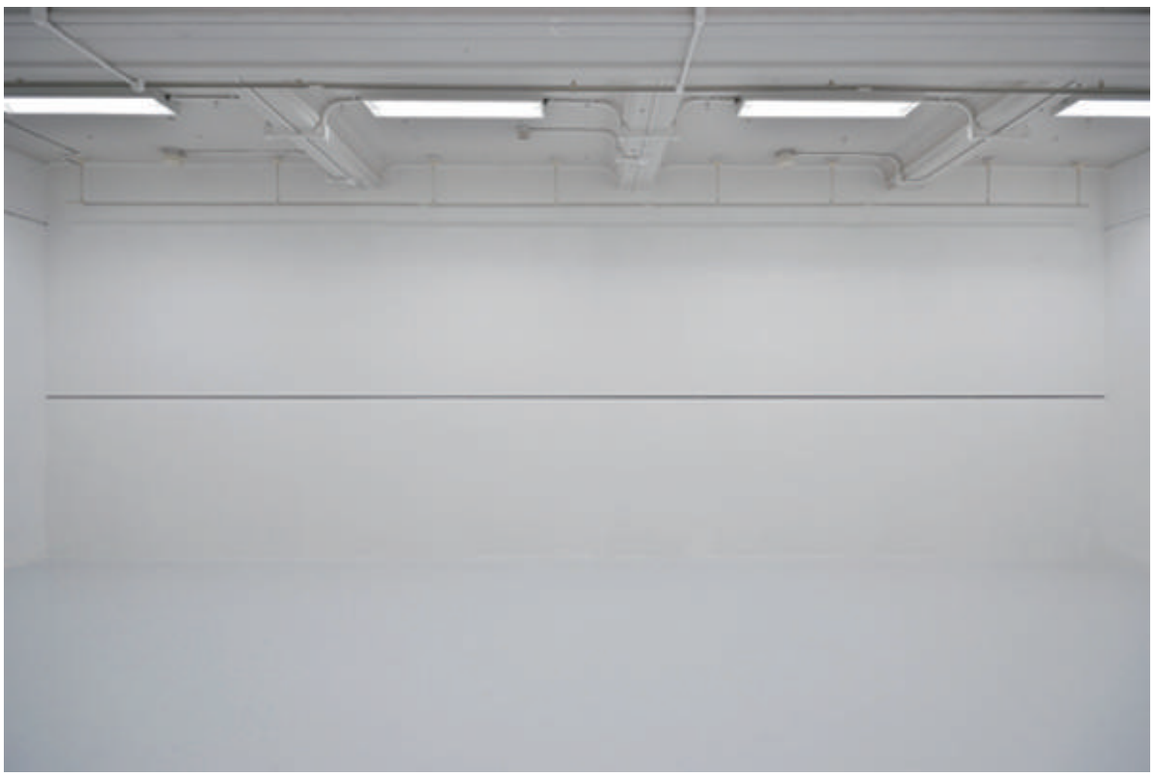


雨の降るを待て (2010)

サイズ = 可変　素材 =LED ライト、100 個の器、100 日の天気

眠る直前に器をひとつ野外に設置し、それを 100 日間繰り返す。
それらの器はカレンダーのようにグリッド状に並べらる。
展示期間の最終日がちょうど 100 日目にあたるように設置され、期間中も器は増えていく。光源は雨の溜まった器の真上に開いた穴から漏れる光だけで、仄暗い空間を鑑賞する。

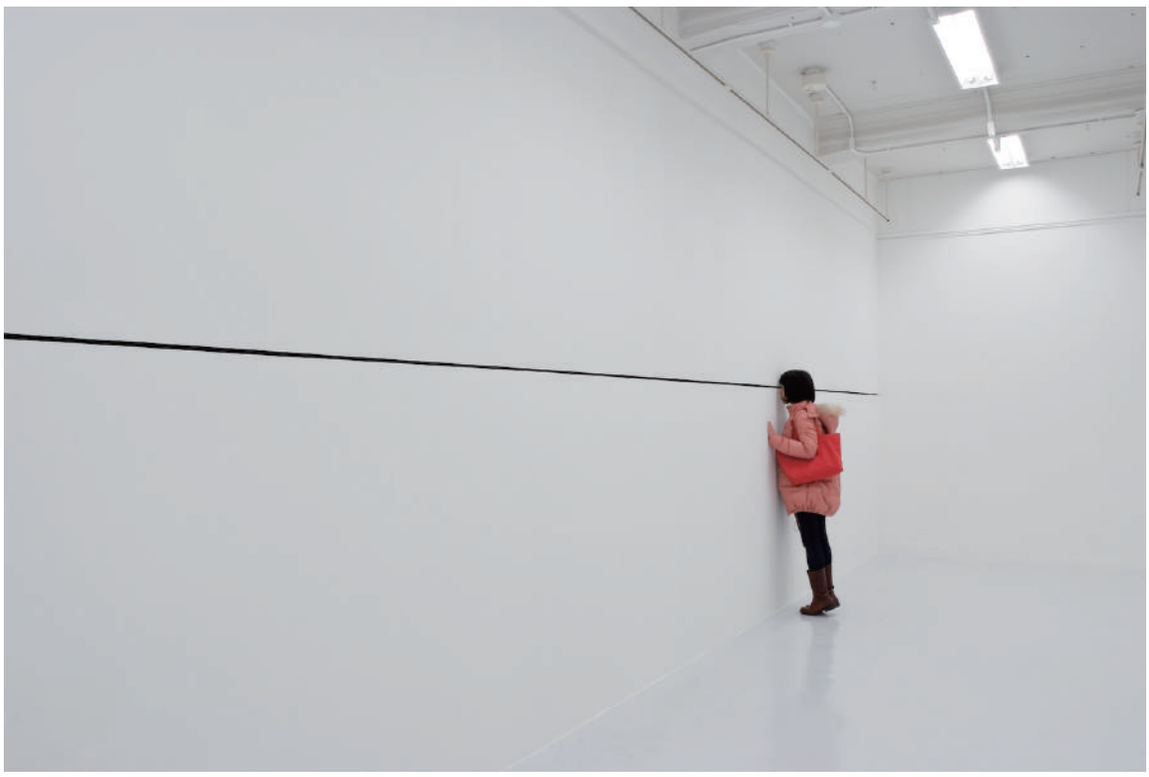
雨の降るを待て (2010)



確かなこと (2010)

サイズ =330x980x353cm　素材 = 木材、壁紙、床下の石、砂、ゴミなど

「公募京都芸術センター 2010」入選作品。
ギャラリーの約 10m の壁を幅 1cm のスリットが一文字に走る。
スリットの先には京都芸術センターの床下から運び出されたものが薄暗い空間に浮かび上がる。元小学校であるこの建物の歴史が具体的な形で現れる。



確かなこと (2010)

確かなこと (2010)

20091222 (2009-2010)

サイズ =25x33cmx6　素材 = ゼラチンシルバープリント

2009 年 12 月 22 日、冬至。1 年で最も光が弱くなる日。
その光を廊下の窓の下にある通気口を通してピンホールカメラを用いて 24 時間かけて撮影した。
それは実際とてもかそけき光だが、床下の闇を照らす確かな光源となる。
展示された 6 枚の写真は撮影場所 (京都芸術センター床下) の真上の窓と対応している。

彼の地 (2008)

サイズ =242x365x340cm　素材 = 木材、床下の石、砂、ゴミなど

観客はにじり口のような狭い入り口から内部に入る。
内部の壁には 360 度、幅 1cm の直線スリットが開けられている。
スリットを覗くと砂や石が敷き詰められているのが垣間みられる。
これらは会場 (アトリエ) の真下から運び込まれたものである。

彼の地 (2008)

Perfect World (2007)

サイズ =14x10x10cm　素材 = テムズ川の土と水、容器

テムズ川の水と土で作られた泥団子。
まるで泥団子が容器の中で呼吸しているかのように、蒸発した川の水滴が現れる。

erasing (2003-2004)

サイズ = 可変　素材 = 紙、100 本の鉛筆、100 個の消しゴム、TV モニター

10m のロール紙を 100 本の鉛筆で塗りつぶし、それを 100 個の消しゴムで消す。
描くとは何か？という疑問から生まれた作品。
最終的に塗られた筆致と消された痕跡の間の画面が生まれた。

森川　穣
mail: tubame25@hotmail.com
website: http://minorumorikawa.com

biography
1983　大阪生まれ
2006　京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業
2007　Chelsea College of Art and Design Postgraduate Diploma Fine Art 卒業

exhibitions
2015　個展「das Licht」(Galerie zur Matze ／ブリーク、スイス)
2015　個展「Raum」(Pavilion ／ブリーク、スイス)
2015　二人展　Willi Dreesen x 森川穣「das Licht (W.D.)」(Gastatelier ／ブリーク、スイス)
2015　グループ展「FORUM WALLIS」(Schloss Leuk ／ロイク、スイス)
2015　グループ展「YOUNG ART 2015」(ZeughausKultur ／ブリーク、スイス)
2013　グループ展「Common Sense of the East」（Gallery175 ／ソウル、韓国)
2013　二人展　NO x 森川穣「ROOTS」（VADE MECVM. ／大阪、日本）
2013　グループ展「IPP#1」 (ロシア現代史博物館／モスクワ、ロシア)
2012　グループ展「うたかた」 (アートラボあいち／愛知、日本)
2012　グループ展「うつせみ」 (常懐荘／愛知、日本)
2012　グループ展「IPP#0『風景の逆照射』」 (ギャラリーフロール／京都、日本)
2011　グループ展「第 24 回 UBE ビエンナーレ」 (ときわ公園／山口、日本)
2011　二人展　柏原えつとむ | 森川穣「Silencer| 天地」 (studio90 ／京都、日本)
2010　グループ展「BIWAKO ビエンナーレ 2010」 (近江八幡／滋賀、日本)
2010　個展「雨の降るを待て」 (studio90 ／京都、日本)
2010　個展「確かなこと」 (京都芸術センター／京都、日本)
2008　個展「彼の地」 (studio90 ／京都、日本)

awards and grants
2014　入選 (キュレーション):「Gallery PARC Art Competition 2014」
2010　入選 :「公募　第 24 回 UBE ビエンナーレ」
2009　入選 :「公募　京都芸術センター 2010」

residence
2014-15　Artist in Residence in Brig-Glis (ブリーク、スイス)

curation
2014 「A Sense of Mapping - 私の世界の測り方 -」(Gallery PARC ／京都、日本)
2012 「うつせみ」、「うたかた」(常懐荘、アートラボあいち／愛知、日本)